

春の妖精 (スプリング エフェメラル) — カタクリ —

3月下旬から、陶史の森やネイチャーセンター前の川沿い、園内の「志野の道」沿いで、春の日差しを浴びたカタクリが鮮やかに開花し始めます。

カタクリはユリ科カタクリ属に属する多年草です。紅紫色の花びらがくるりと反り返り、うつむいて咲く姿は可憐で美しく、まさしく春の妖精 (スプリング エフェメラル) です。春の野山を散策する人の心を引きつけます。幅3～7cmの長楕円形の2枚の葉には、通常紫褐色の斑点があり、中心から10cmぐらい茎を伸ばし、先端に1輪だけ花を咲かせます。花は、日が当たると開花し、雨や曇りの日は閉じたままです。「カタクリ」の名は、古名「カタカゴ」の転訛で、「傾いたかご状の花」という意味がありました。日が当たると花びらが強く反り返る花の形からこの名が付いたようです。開花期間は2週間ほどで、期間を過ぎると茎も葉も枯れてなくなってしまいます。

カタクリは片栗であり、地下球根からは片栗粉が作られてきました。その精製量のごくわずかであるために、現在ではジャガイモやサツマイモから抽出したデンプン粉が用いられていることが多いです。

春の野山にカタクリの花を見つけるといよいよ春本番となり、本格的に生き物たちの生き生きとした営みの始まりを感じます。3月下旬から4月下旬の陶史の森では、カタクリの花が見頃になります。どうぞ、この機会にカタクリを見に来てください。



カタクリの花



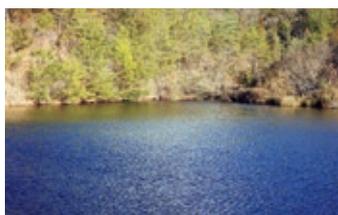
カタクリの群生

森	の
日	記

今年は渡り鳥が激減しました 1月24日(月)

11月下旬から林泉の池に、多くの種類の渡り鳥がやってくるのを心待ちにしていました。

しかし、1月24日現在、写真(左)のようにほとんど渡り鳥が来ていません。例年かなりの渡り鳥が羽を休めているのですが、とても寂しい状況です。理由は定かではありませんが、温暖化や環境の変化を心配しています。春まであとわずかではありますが、渡り鳥が飛来することを心待ちにしている1月下旬です。



▲ 今年の1月の様子
渡り鳥の姿がありません。



▲ 2019年1月の様子

教室のご案内

3月

- バードウォッチング(要申込 定員10人)
3月27日(日) 午前9時～11時30分
初春の野鳥を観察します。※雨天中止

4月

- ギフチョウ観察会(要申込 定員10名)
4月3日(日) 午前9時～11時30分
- ヒツジの毛刈り(要申込 定員10名)
4月中旬 午前9時～11時30分
※現在、期日は未定です。4月に入ってから、問い合わせください。
- バードウォッチング(要申込 定員10人)
4月24日(日) 午前9時～11時30分
春の野鳥を観察します。※雨天中止

※新型コロナウイルスの感染状況により中止になる場合があります。

陶史の森は自然環境保護地域です。動植物や石などは絶対に採らないでください。また、ペットの同伴はご遠慮ください。